

弁護士法人福岡法律事務所

代表弁護士 福岡 則博、弁護士 尾崎 悠吾

〒665-0845 兵庫県宝塚市栄町2丁目2番1号ソリオ3(5階)

TEL: 0797-87-5606 FAX: 0797-87-7160

HP: <https://www.fukuma-law.com/>

Mail: office@fukuma-law.com

執筆: 弁護士 福岡 則博



Legal F : Forces for Friends, Families and Fortunes (友人、家族、財産を守る力)

空海「**吽字義**」(うんじぎ)(生涯774~835年)

① 「訳注 吽字義釈」(松永有慶 春秋社)

② 「空海コレクション2」

(北尾隆心 訳注 ちくま学芸文庫)

③ 「弘法大師 空海全集第2巻 思想篇二」

(小野塚幾澄 訳注 筑摩書房)

1 これまで空海の「**即身成仏義**」「**声字実相義**」をご紹介してきましたが、今回は、「**吽字義**」(うんじぎ)をご紹介したいと思います。上記三書は「**三部書**」と呼ばれ、空海の思想の中核をなすものとされています。本書の名称については、「**吽字義**」とするものと「**吽字義釈**」とするものがありますが、「**三部書**」の他の書名との関係から、「**吽字義**」とされることも多いようです。

2 本書の読み方については、これまで同様、上記①における原漢文(返り点付き)の部分をコピーし、上記②の語釈を参考にして読むというスタイルです。今回、③の空海全集を若干参照しましたが、ここには原漢文の掲載がないため、やや残念でした。空海の記事は、やはり漢文形式で読んでこそ、その論理性・凝縮性が顕著に伝わってくるものであり、読み下し文にするとその迫力が乏しくなるように感じられます。

3 さて、三部書のうち、「**即身成仏義**」は、密教思想の根幹的内容を明らかにし、「**声字実相義**」は、思想の表現形態である言語の宗教的意義を明らかにするものですが、今回の「**吽字義**」は、特に「**吽**」(うん)という字の意義を明らかにするものです。この「**吽**」という字は、「**阿吽**」(あうん)の呼吸の「**吽**」であり、「**阿**」(あ)が始まりを意味し、「**吽**」(うん)は終わりを意味するとされますが、空海が取り扱う「**吽**」はサンスクリ

ット語を表記するための梵字の一つです。

4 **即身成仏義**においては、悟りを開くには何億年もの歳月を要するとされていたのを、空海はそのような歳月を不要とし、人はその身のままで既に悟りを開いているとし、「**声字実相義**」においては、言語がそのまま仏の実相であるとし、それまでの宗教思想を大転換させたのですが、今回の「**吽字義**」は、ただ一文字を解釈するに過ぎず、私としては、本書は前二書と内容あるいはレベルを相当異にするだろうと思われ、いくら何でも文字一つを解釈するのに、そう多くを語ることは出来ないだろうと思って読み始めたのでした。

5 しかし、当然のことながら、空海の記事は、私ごとき者の考えを、遙かに遙かに遙かに、超えており、またしても、空海の超絶的思考の論理性、発展性、透徹性に完膚なきまでに打ちのめされる事態となりました。本書を、「**声字実相義**」の補充書とする見解もあるようですが、本書は、まさに**微小世界**とも**言うべき文字一字の中に、宇宙全体が包含**されているという構造を有しており、空海が本書で述べている「**一は一に非ずして、無数をもつて一なり**」(「**麼**」(ま)字の解釈箇所)を体感させる内容になっております。

6 非力ではありますが、私なりの理解で内容を若干紹介してみたいと思います。

空海は、字の解釈については、「**字相**」の解釈と「**字義**」の解釈があるとし、「**字相**」とは字の外形・表面であり、「**字義**」とは字の本来の意味(真義)であるとし、そして、これらを論ずる前提として、「**吽**」は、4つの部分ないし文字から構成されるとし、**字相**としては、「**賀**」(か)、「**阿**」(あ)、「**汗**」(う)、「**麼**」(ま)の4文字であるとし

ます。そして、それぞれの表面的意味は、「賀」は因（原因、因縁）、「阿」は源、一切の声・字の母、「汗」は損減（無常）、「麼」は我（人）を意味します。

7 これらの字相から感じ取られる全体的イメージは、何らかの機縁を契機として始まったこの人間世界は、因縁によって流転し、無常のものであるというものです。空海がこのようなことを明言しているわけではないのですが、後の字義の解釈からすると、その対比でこのようにイメージできるのではないかと思います。

8 空海は、これらの字義として、「賀」を「訶」（か）とした上で、**四つの構成要素を「訶」（か）「阿」（あ）「汗」（う）「麼」（ま）**とし、これらの意味を展開していきます。

(1) まず、「訶」（か）については、それが因であるとしても、原因の原因の原因を突き詰めていけば、最後には、原因を見いだせない段階にいたるとし、「**無因待をもって諸法の因となす**」とし、因の根本は無因とします。

(2) 次の「阿」（あ）についても、これが事物の源であり、「**本不生の義**」（未だ生まれてもいない原理）であるとしながら、ここから一切の現象が展開されることから、「**本不生より一切の法生ず**」とします。

この「本不生の義」という言葉は、空海の他の書でも比較的良く出てくる言葉であります。本書では「本不生際」という言葉が使用される箇所があり、事物が縁や因縁で展開することが述べられた後、「この如く観察する時に則ち本不生際はこれ万法の本なりと知る」とあり、空海は本源から何かが生成される様子をまざまざと見た人ではないかと思われました。

(3) そして、「汗」（う）は字相としては「損減」とされ、現象の否定的側面を意味しますが、空海は、損減の背後に損減しない絶対的な菩薩を見だし、日月が雲に隠れていると「愚者はこれを見て日月なしと言えり」とし、「**損減の利斧は、常に仏性を砕く。しかりといえども、本仏は損もなく減もなし**」（現象の悪化という鋭

い斧は人間の仏性を砕くようであるが、それでもなお本来の仏性は何ら毀損することもなく、減少することもない）とします。

(4) さらに、「麼」（ま）については、あらゆる人間の奥にある絶対的境地を説き、「**我則法界、我則法身、我則大日如来**」と説いていきます。

9 各字の個別解釈が徹底的になされると、今度は、これらを統合した総合解釈、共通解釈、本質・エッセンス解釈が繰り広げられます。例えば、一切の教義は、「**菩提為因、大悲為根、方便為究竟**」の三句（菩提心を因とし、慈悲を根本とし、衆生救済を究極とする）に尽きるとし、この三句は「吽」の一字に集約されるとします。

10 空海の解釈はとどまることを知らないというほどですが、そのような解釈の一つに、「**一切衆生の希願を満たす**」という「**満願の義**」がありました。

宝塚市の地域内に川西市の土地（飛地）があり、そこには満願寺というお寺があって弘法大師の像が設置されています。今回の読書を通じて、ちょっとした関連性を見つけることができ、うれしく思った次第です。

